Abstract

AROMA RESEARCH　No.50（vol.13/No.2）

匂いの生理学研究・脳神経科学研究の問題点と課題　外池光雄

〈要旨〉

本論文は、匂いの生理学的研究・脳神経科学研究における現状の問題点を検討し、今後取り組むべき重要課題、この分野の近未来の研究展望について述べる。

近年、ヒトの脳活動を外部から非侵襲的に客観計測する技術が飛躍的に進展してきたが、実際の脳活動を正しく反映していることを如何に証明するかという大きな問題点が残されている。そこで著者は、今後の重要課題として、①霊長類サルの脳研究、②ヒト幼児の発達過程の脳研究、③マルチモーダル非侵襲計測法によるクロスチェック、を掲げた。例として、現在著者が取り組んでいる匂いと画像の同時刺激による f-MRI 脳研究を紹介した。今後の匂いの脳研究には、五感の感覚情報統合機能研究が求められる。

〈キーワード〉

匂いの非侵襲脳計測、霊長類サルの脳、ヒト幼児の脳、五感情報統合機能